

## 「バリアフリー図書」って知っていますか？

最近、公共図書館や学校図書館などに、「バリアフリー図書」のコーナーが増えてきました。

バリアフリー図書とは、「読める・読みやすい」、「わかる・わかりやすい」を必要とする読者の特性やニーズを意識して作られた本のことです。

## 点字つき さわる絵本

もともと点字つきさわる絵本は、ボランティアの人たちによって手づくりで作られてきましたが、2002年に出版社、印刷会社、作家が集まり、「点字つき絵本の出版と普及を考える会」が発足。いまでは、さまざまな点字つきさわる絵本が出版されるようになりました。

## 布の絵本

もともとイギリスやアメリカでクワイエットブック（Quiet Book）、ビジーブック（Busy Book）と呼ばれ、幼児向けの知育玩具として古くから普及していました。日本では、北海道札幌市にある「ふきのとう文庫」が布の絵本の製作をはじめ、やがて全国に製作ボランティアグループが増えていきました。

## 大きな文字の本

もともと大きな文字の本は、ボランティアの人たちがフェルトペンなどを使って一文字ずつ手書きをして作っていました。やがてパソコンを利用して作成するようになり、出版されている本も少しずつ増えてきました。

## わかりやすい本 （LLブック）

「わかりやすい本（LLブック）」は、もともとスウェーデンで1960年代に、障害のある人や外国ルーツの人なども理解しやすい本として作られるようになりました。

※LLブックのLLとは、スウェーデン語の「Lättläst」（わかりやすい）の略です。

## オーディオブック 音で聴く読書

ヨーロッパやアメリカでは、もともとオーディオブックが普及していましたが、日本では視覚障害者向けの音訳図書以外、普及してきませんでした。

インターネットや定額制サービス（サブスクリプション）の普及によって、最近利用者が増えてきました。